東海労 関西

２０１３年
５月３０日
第６００号

ＪＲ東海労新幹線関西地方本部
http://www.geocities.jp/jrcu_s_kansai/
発行責任者 小林　國博　編集責任者 高田裕雄

葛西会長の唱える経済成長の条件とは？

５月２６日、読売新聞に葛西会長の論文が二面に渡り掲載されています。葛西会長は今後の経済成長に必要な条件として、まず一面では「原発再稼働とＴＰＰ必須」、更に二面で「先端技術開発日米協力で」と述べています。

その中で葛西会長は原発再稼働させる理由として、次のように述べています。

> 人々の生活は、様々なリスクの総和の上に成り立っている。例えば自動車もその便益と交通事故のリスクとの対比の中で受容されている。世界の趨勢は放射能の危険性を冷静に評価し、原子力利用を推進する方向だ。日本は福島の事故の教訓を生かして世界一安全な原子力利用技術を保有できるはずである。情緒的な原発廃止論の終着点が失業の増加と国民の貧困化だという事実を人々が知れば、論理的な帰結として原子力の利用を選択するだろう。

ここで葛西会長に質問です。「世界の趨勢は放射能の危険性を冷静に評価し、原子力を推進する方向だ」は事実誤認ではないでしょうか？　事実イタリア、ドイツなど世界の多くの国が、原発から撤退しています。何を根拠に世界の趨勢と言っているのですか？　勝手に都合のいい前提をつくり出して、都合のいい結論を導き出すというのでは、論理として破綻しているのではないでしょうか。

更に福島事故の教訓のどこから、世界一安全な原子力技術が出てくるというのでしょうか？　１９６３年１０月２６日、茨城県東海村に建設された動力試験炉が初発電を行いました。それ以降、原発村を中心に流布されてきた安全神話は、今回の福島の事故で無残に吹き飛んだのではないでしょうか？ 原発と人類は共存できない。これこそが福島事故の教訓ではないでしょうか。

次に葛西会長は「先端技術開発日米協力で」として、このように述べています。

> 先端的な技術は損得勘定の中からは生まれない。明確な開発目的が与えられ、コストの制限が無く、強い使命感に牽引された時に初めて新技術が発明される。新技術の多くが軍用技術から端を発したのはそのためである。それらの技術が民政移転された時にコストダウンが進み、新たな産業が生まれる。

「言葉はその人を映し出す鏡のようなものである」という言葉がなかったでしょうか？
大袈裟かも知れませんが、言葉を選ぶのは本人の責任においてなされている行為なのです。
ここで会長にとって、先端技術は軍事技術とイコールなのがよく分かりました。

これまでにも葛西会長の言葉の端々から軍事的、或いは軍隊を想起させる言葉がよく現れました。それもこれも、不思議なことではなかったのです。葛西会長によるならば、経済成長の条件の一つが、軍事技術の開発なのですから。